

たけのこ

2015 APRIL 4 / 第25号



理念

友情を図り、「生きる喜び」と「希望」を育み、「安全・安心・信頼の医療」を実現します。

指針

1. 医療の安全と質の向上に努め、患者さんに信頼される医療を提供します
2. 医療人の育成を図り、医の倫理の高揚に努めます
3. 患者さんの人権と個人の尊厳を守り、親切、丁寧な医療サービスに努めます
4. 社会の変化・医療の進歩に対応できるよう自ら研鑽に努めます
5. 医療を通して、地域社会の一員として貢献できるように努めます
6. 精神障がいに対する偏見や誤解の解消に努めます



医療法人 久盛会

秋田緑ヶ丘病院

日本医療機能評価機構
認定病院



〒011-0911 秋田市飯島字堀川 84 番地
TEL (018) 845-2161 FAX (018) 846-6942
ホームページ <http://www.kyusei.or.jp/>



クローバー配食部門



被災地はいま

副診療部長 鈴木 稔

東日本大震災から、早や4年が経過しました。私は、岩手県こころのケアセンター1からの依頼を受け、2013年4月より、被災者の方々に對して慢性期の心のケア活動を実践する目的で、定期的に岩手県沿岸部の被災地を訪問しております。訪問を開始した2013年当初、被災地の方々は、主に仮設住宅での生活を営んでおられました。その後、盛り土等の土木工事があちこちで行われ、災害復興住宅の建設も始まり、一部の災害復興住宅は完成し、既に入居された方もおられます。しかし、復興にはかなりの個人差があるのが実情として、順調に生活再建を進めておられる方も一部にはいらっしゃるものの、さまざま障壁に悩まされ、自分の思い描いていた生活再建の形からは程遠く、苦勞が続き、また失望されている方々も少なくありません。

家族を失い、自宅を失い、職を失い、経済的にも御苦勞されておられる方々が大半です。そのような状況の中で体調を崩されたり、精神的に不安定になられたりしている方々を、現地スタッフと伴に訪問し、お話を伺ったり、アドバイスをさせていただいたり、お薬を処方させていただいたりしております。

大変困難な状況のなか、被災者の方々は亡くなった方々を想い起こし、地元(郷土)を愛し、仲間を愛し、何とか復興させようという希望を見出し、本当に懸命に生活しておられます。そのような状況でありながらも、他県から訪れた私のような者を逆に氣遣ってくださる方もおられます。本当にいつも頭が下がる思いがしますし、また身が引き締まる思いがして、医師として、また人として、学ばせて頂くことも少なくありません。

私がお役に立てることは誠に微力ではございますが、今年度も被災地訪問活動を継続させていただくこととなりました。つきましては、数か月に一度病院を留守にし、被災地に赴く予定です。当院をご利用されている患者様並びに御家族様、当院職員の皆様方には何かと不便をおかけすることもあろうかと思いますが、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



クローバー特集

クローバー就労継続 支援事業所の紹介



サービス管理責任者
上杉 淳

クローバー就労継続支援事業所は、障がい者総合支援法の訓練等給付に該当する障がい福祉サービスに位置づけられており、一般就労に対して意欲のある障がい者を対象に、作業を通して対人関係におけるコミュニケーションの訓練や生活リズムの構築、就労意欲の向上を目的に訓練を実施しております。現在45名の方が登録し、クリーニング部門と厨房部門に分かれての訓練に取り組んでいます。クリーニング部門では、秋田緑ヶ丘病院入院中の患者さんや老人保健施設三楽園入所中の利用者さんの洗濯物を回収し洗濯を実施。厨房部門では、ロンドンバス店舗での軽食喫茶提供、グループホーム入所者への弁当提供、秋田緑ヶ丘病院内コンビニH.O.Wでの弁当販売をしています。

また就労訓練の準備が整った方については、ハローワークへの同行支援や関係機関との連携を取りながら、一般就労に向けた支援を進めております。今後も1人でも多くの方が希望する生活が実現できるように、職員一同協力して支援に取り組んでいきたいと思っております。

「コンビニ弁当」 はじめました



クローバー就労継続
支援事業所
生活支援員
加藤 彩

秋田市上飯島駅の向かいにある、赤いロンドンバスが目印の、クローバー就労継続支援事業所では、利用者が作業を通して、社会での自立を目指すための施設です。クローバーの配食部門では、主にグループホーム入居者への食事提供として、お弁当の配達を行っています。その実績から展開し、病院家族会や支援センターの行事用弁当も予約販売し、季節や目的にあったお弁当をお届けしております。

そして、この度は、秋田緑ヶ丘病院内のコンビニH.O.Wさんに、クローバーで作ったお弁当を置くことができました。昨年の9月から始めて半年が経ち、たくさんの方からお買上げいただきありがとうございます。これからも、職員、メンバー共に、皆様笑顔になるお弁当作りに励んでいきますので、応援よろしくお願いたします。

※表紙の写真は、コンビニ弁当の調理・盛り付けの様様です。

みなさん、【和みアート】 をご存知ですか？

和みアートとは

「パステル」という色とりどりの画材を使って描く絵です。

方法は、パステルを削った粉を指で描くだけです。簡単なのに、完成するとかわいらしくて素敵な絵になると患者さんに大評判です。

作業療法では月に1回、専門の講師2人をお招きしてパステル和みアート教室を開催しています。

お互いの絵を褒め合いながらのしく描いており、みんなの癒しの時間です。



100歳お誕生会

当院の患者さんに今年めでたく100歳を迎えられた方がいらっしゃいましたので、盛大なお誕生日会を開催しました。

職員から思い出しっぱいの祝辞と手作りプレゼントをお渡しすると、ご本人さまからはっきりとした口調と明るい笑顔で「ありがとうございます！うれしいわぁ！」と感想を頂き、職員のほうが元気をもらいました。

これからも、ますますお元気で長生きしてくださいね。

100歳のお誕生日おめでとうございます。



辞令交付式

4月1日、新年度となるこの日、当院第1研修室にて採用となる職員への辞令交付式が行われました。新卒者も多く、多くが緊張した面持ちで臨んでおりました。この式の後、真新しい制服に身を包んだ採用者は医療人としての第一歩を踏み出しました。



デイナイトケア

科長 菊地 敏行



デイナイトケアとは、1人で過ごすのが不安、夜が怖い、だれかと一緒に夕飯を食べたい、…などの社会生活上の不安や寂さを解消し、症状の再燃や再発による入院などを無くすために行う外来治療のひとつです。

1日の生活サイクルを整えることで、健康的な生活リズムを身に付け社会復帰の促進に大きく役立ちます。

さてそれではデイナイトケアの実際の流れを紹介します。

9：15開始です。日中は大勢の参加者と共に、ゲームや軽スポーツ、読書やフリートークなど様々なプログラムを行い、15：15よりナイト部分が始まります。カラオケや創作活動、シャワーでリフレッシュする方など、思い思いに自分の時間を過ごしクールダウンを行ってリラックスした時間を過ごします。ちょうどお腹がすいた頃みんなで夕飯を食べ19：15解散です。あとは自宅で就寝し、1日の生活リズムを整えます。関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

薬局だより

院外処方開始から1年

薬剤部長 向井 想一



先日、朝焼けのピンク色の空を見ました。小躍りするうれしい瞬間であり、同時に安心感を覚えました。春が近いのですね。

さて、院外処方を開始して4月で1年になります。当院の処方内容は難解であるため、色々なトラブルや疑義紹介を予想していましたが、先生方やスタッフの協力もあり、問題なく院外処方が確実に定着したと考えています。現在はクオール薬局で当院の約8割の処方箋を応需していただいております。

そこで、院外処方の良い点を少し紹介してみようと思います。

- ①保険薬局では、薬を安心して使っていたくために使用・保管の方法や服薬に関する十分な指導をしてもらえます。
- ②複数の医療機関にかかってお薬をもらった場合でも、保険薬局では個人の薬歴簿を作って管理しますので重複して飲まないように、また、飲み合わせのチェックもしてもらえます。
- ③お薬の待ち時間が短くなります。
- ④医師と保険薬局の薬剤師や病院の薬剤師が連絡しあってその専門性を生かし治療効果の向上や副作用の防止に役立てようとする制度です。

病院薬局ではどうしても院外処方が困難な患者さんの処方箋は受け付けています。そのため、投薬カウンターはいつも開かれています。何か、お薬等の相談があれば声をかけていただければと思っております。

院外処方箋発行、ご協力ありがとうございました。

リレーこらむ

P S W新人研修



医療福祉相談室 室長
坂下 哲也

今回、リレーコラムの依頼を受けました。題名は自由で良いと言う事でしたので、

3月という季節から当院の精神保健福祉士(以下P S W)独自の新人研修を紹介したいと思います。

よく新入社員のP S Wに、P S W研修は「制度や法律を理解する研修ですよね。」と聞かれることがあります。たしかに制度等を理解していることはとても重要なことですが、それだけではP S Wの業務は進められません。支援を必要とする患者さんに対しての倫理的な配慮をしつつ、多角的な視点で状態像を把握したうえで、根拠を持ちながら制度や法律の提案や調整を行い、必要であれば新たな社会資源の開発を行います。

そこで、当院のP S W研修は、病院全体の新人研修を基盤としたうえで、P S Wとしての倫理・視点をディスカッション形式(スーパージョン)にて行い、そこから存在意義を理解し、業務を進めるために必要な考え方を学びます。文章でみると簡単なようですが、これが1番難しい技術です。

それもあり、私が新人だった当時は、上司に「単に制度を説明する人は、法律や制度に詳しい人でよく、P S Wである必要はない。」と言われ続けました。その時は、あまり理解することができませんでした。経歴を重ねることによりその重要性が分かりました。

今年も当院へ入社するP S Wがいま。患者さんにとって有益な存在になれるように取り組みたいと考えています。

外来診療のご案内

心療内科・精神科・内科・麻酔科

◆初診の場合

〈受付時間〉 午前 8:45～11:30 まで

〈受付窓口〉 受付・総合案内へ

〈外来診療受付時間〉 平日・土曜日問わず受付は午前 11:30 まで
にお願いいたします。

〈診療時間〉 平日（土曜日は午前中のみ）

9:00～12:00 / 14:00～17:00

土曜日の診察は「第2・第4」のみ行っています。
但し、救急の場合はその限りではありません。
（午後予約制による診察を行っています。）

※内科は土曜日休診、麻酔科は平日午後・土曜日休診。

〈必要なもの〉 保険証

※受給証をお持ちの方は併せて受給者証を提示してください。

◆院外処方について

当院では外来の院外処方を行っています。ご不明な点につきましては、外来受付までお問い合わせ下さい。

◆2回目以降受診（再診）の場合は

〈受付窓口〉 外来・再診受付へ

〈必要なもの〉 診察券と予約券

◆専門外来について

「うつ・ストレス外来」「女性専門外来」「思春期外来」「もの忘れ外来」「睡眠障がい外来」「てんかん外来」「PTSD外来」「頭痛外来」こちらの外来診療については完全予約制となりますので受付までお電話下さい。

毎月1回は保険証の確認をさせていただきますのでご提示願います。



クレジットカードでの 支払いが可能です

サービス向上の1つとして、診療費等の支払いについては、JCB、AMERICAN EXPRESS、VISA 及び MasterCard の4ブランドのクレジットカードがご利用できます。クレジットカードが利用できることにより、支払方法の選択肢が広がるほか、現金の持ち合わせがなくても安心して受診できるようになります。

「看護を語る会」を開催！

2月10日、当院研修室で『看護を語る会』を開催しました。これは、毎年行っている職員行事で、新人看護職員を対象にしております。

目的は、①新人が自分の看護を認められることにより、自分の看護観に自信を持ちモチベーションを高める②他者の看護観を知ることにより、自己の看護がより幅のあるものになる③新人と指導者が場を共有し、看護に対する思いを遠慮無く出し合い、絆を生み出し新人の職場定着へとつなげる、となっております。

今年もケーキとお茶を楽しみながら、リラックスした雰囲気で開催することができました。

参加した新人看護職員の1人は「他の職員の看護観を聞いて、初心を忘れずに頑張りたい」と述べておりました。



編集後記

先日、暖かな日差しに誘われて外へ出てみると、庭先の水仙のつぼみが膨らんでいました。いよいよ「春」ですね。新しい環境に不安や戸惑いも多い季節ですが、新たな出会いに期待し晴れやかな気持ちで新年度を迎えたいものです。



Q&A



〇固く締めても止まらない水道があります。パッキンの取替えなど早急に対応してください。

A ご意見有難うございます。ご指摘の水道については、正常に使用できる状態に修理致しました。ご不便をお掛けしたにもかかわらず、作業終了時に、入院患者さんから感謝の言葉を頂戴致しました。誠に有り難うございます。

この度のような案件を防ぐ目的で、施設管理課の職員が病院内を巡回していますが、今後も何かお気づきの点がございましたら、遠慮なくお申し出ください。

職員や病棟に関するご意見につきましては、各担当責任者が個別に対応しております。病院運営の参考にさせていただきますので、今後ともご協力宜しくお願いいたします。

こんにちは。新人です！



西1病棟 看護師 近藤 拓

昨年の4月1日から西1病棟で勤務し、約1年が経とうとしています。看護師1年目で初めてのことがばかりで不安や緊張もありましたが、病棟スタッフのみなさんが暖かく迎えてくれ、アドバイスをや指導を受けて日々業務に励んでいます。まだまだ学ばなければならぬことが多いですが、理想の看護師になれるように日々努力を重ねていきたいと思えます。



東1病棟 看護師 石田 勇人

昨年4月より東1病棟で勤務し、早いもので1年が経とうとしています。はじめはわからないことがばかりで業務や患者さんとの関わりにおいても不安や戸惑いが多かったですが、病棟スタッフの皆様方の温かいご指導やアドバイスを支えられ日々業務に励んでいます。まだまだ経験も浅く学ぶこともたくさんありますが、一日でも早く戦力として貢献できるよう、今後も精進して参りたいと思えます。

スマホ版ホームページが
完成しました

